

## 環境社会学ゼミ首都圏インカレへの参加・報告

現代社会学科 国際地域共創メジャー  
環境社会学ゼミナール  
担当教員：原口弥生

参加学生 現代社会学科、国際・地域共創メジャー 4年生 7名 3年生 7名

首都圏の大学で「環境社会学」を学ぶ学生たちが集う「2023 年度(第 6 回)環境社会学首都圏インカレ卒論発表会」が、11 月 12 日(日)に明治学院大学白金キャンパスで開催され、茨城大学環境社会学ゼミからも 4 年生7名、3 年生7名の 14名が参加してきました。

今回参加した大学は関東学院大学、筑波大学、都留文科大学、明治学院大学、早稲田大学(2研究室)、茨城大学の 6 大学、7研究室の学生で、参加総数 50 名以上となりました。

昨年同様、対面での開催となり、4 年生は緊張した面持ちで卒業研究の中間報告に臨みました。この日を中間目標として卒業研究を進めてきましたが、他大学の教員や学生との研究交流は、おおいに刺激になったようです。3 年生も来年度は自分の発表機会となるため、いくつかの教室を回り、積極的に質問もしていました。

参加した学生からの感想の一部を紹介します。

後援会より学部学生の往復の交通費に対してご支援を頂いております。心より感謝申し上げます。

### 【参加学生の感想】

- ・自分の研究テーマが改めて、難しいテーマだということが一番実感しました。なぜなら、あまり学生からの質問がでず、「広げすぎたものをどうまとめるかが腕の見せ所ですね」というコメントをいただいたためです。分析軸を改めて見直す必要はないものの、何を述べて何を述べないかは課題だと考えました。また、「公害」の位置付けと公害教育の公害をどう結び付けるかということをもう少しわかりやすく発表できればよかったかと考えました。(4 年)
- ・他大学の方々の多様なテーマに触れ、環境社会学と一口に言っても多くの視点や問題の見つけ方・捉え方があることを実感できたように思う。調査の課程についても、インタビューをはじめ自ら動いて現場の人の声を聴くことの重要性を理解できた。環境社会学は、どの立場の人なのかによって事象の見え方が全く変わってくるものだと思うので、積極的に探究し様々な人の考えを拾い上げながら調査する必要があると感じた。それができている人の発表は、やはり充実度や納得感が高かったように思う。(3 年)
- ・環境社会学に関する幅広いテーマの発表を聞くなかで、研究動機やインタビューの対象の選定がしっかりとなされていると思った。他の大学の生徒さんが積極的に質問していたことが刺激になった。(3 年)

### 【全体でのガイダンス】



他大学生に交じり、報告予定の4年生はかなり緊張しています。

### 【報告の様子】



学生は他大学の教員が司会する教室で報告し、その後、参加する学生からも含めて質疑応答に移ります。

【各大学・ゼミ紹介】 3年生はゼミ紹介の担当。全体会にて今年度の活動報告を行いました。



【終了後・・・】 全体プログラムが終了し、ゼミ全体で集合写真。

4年生は報告が終わり、安堵の表情です。

